刹那に想いを込めて 其の十

本日はちょっとマジで危うかったのでスキルで文字稼ぎするような真似に……でも山場は越えたので明日のうちに貯金を稼ぎます

「さて……ここが？」

「はいなっ、ここがラビッツの特技剪定所(スキルガーデナー)ですわ！」

慌ただしくゲーム間をログイン&アウトを繰り返しつつも、現在ラビッツ。エムルに連れられ、俺はついにシャングリラ・フロンティアをプレイして初めて利用する施設を訪れていた。

というのもパワーレベリングの結果、大量のスキルを習得した為にスキルの整理と強化の必要性が増したのだ。ポイント振りの結果、現在のステータスはこのようになっている。

————————————

PN:サンラク

LV:51（5）

JOB:傭兵（二刀流使い）

73,200マーニ

HP（体力）:30

MP（魔力）:10

STM （スタミナ）:60

STR（筋力）:40

DEX（器用）:50

AGI（敏捷）:70

TEC（技量）:55

VIT（耐久力）:5

LUC（幸運）:74

スキル

・ラッシュスラッシュ→無尽連斬

・スパイラルエッジ→ドリルピアッサー

・ナックルラッシュ→選択可能

・スライドムーブ→スケートフット

・レペルカウンター→パリングプロテクト

・ループスラッシュLv.8

・エッジクライム→グレイトオブクライム

・アクセルLv.MAX

・一艘跳び→五艘跳び

・クイックスピン→シャープターン

・ディアステップLv.7

・水切りLv.6

・辻斬りLv.4

・オプレッションキックLv.5

・ピアッシングアーマーLv.3

・ベストステップ

・ファイティングスピリットLv.7

・アンブレイカブルLv.5

・ハイランナーLv.6

・ネイキッドセンスLv.4

・飢餓衝動Lv.4

装備

左右:帝蜂双剣

頭:凝視の鳥面（VIT+1）

胴:リュカオーンの呪い

腰:隔て刃のベルト（VIT+4）

足:リュカオーンの呪い

アクセサリー:なし

————————————

「うーんこのティッシュ装甲」

もはや紙以下だよ、もしくはトイレットペーパー並の脆さだ……水の一滴で大穴が開きそう。装備を新調していないのもあるが、一切振っていないVITが貫禄の一桁。

どちらにせよ耐久面に振ったところで一撃全損はどうしようもないと諦めたのだが、本当はもう少し幸運とかに振りたかったなぁ……おのれマイフェイバリットウェポン。

「いい加減ごちゃごちゃしてきたし、確かに整理の為の施設があってもおかしくないよなぁ……」

スキルが多いことは悪いことではないが、三十も四十もスキルがあっては邪魔というものだ。であるならば名前の通り余計な枝を切って本筋を太くする剪定所が存在することはごく自然なことであり、何が言いたいかというと過去の俺殴りたい。

「街の方にも剪定所はありますわ、でもこっちの方が品揃えがいいんですわ！これは内緒ですわ？」

「いいねいいね、そういう秘密の格差俺大好き」

悪代官と悪徳商人みたいな会話をしつつ、俺とエムルは兎御殿内の特技剪定所を訪れる。

「いらっしゃあーい、あらぁエムルと鳥の人じゃなぁい」

「その鳥の人ってのは定着してるのか？」

会うたびにそれ言われてる気がするぞ……ますます頭装備を変えられなくなってきた。

やけに間延びした口調の、所謂「おねーさん感」が強い兎が俺とエムルを出迎える。なんとなくエムルに似ている、耳がエムルと同じロップイヤーと言うこともあるが、なんというかより姉妹としての印象が強いと言うか。

「エルクおねーちゃん！サンラクサン、エルクおねーちゃんはアタシともう一人のおねーちゃん……アタシ達三つ子のおねーちゃんなんですわ！」

「へぇ」

「よろしくねぇ」

なるほど、ただ上から順番というわけではなく、三つ子だったり双子だったりもいるのか。かがんでエムルの姉……エル(Ｌ)ク握手を交わしつつも本題に入る。

「あー、ここでスキルの合体とかが出来るんだよな？」

「ええーそうよぉ、ワタシぃそういうの得意だからぁ、お父さんにぃ言われてぇ私が担当しているのぉ」

「さいですかぁ」

「サ、サンラクサンおねーちゃんの話し方が移ってますわ！」

おっといけない。

「じゃあ早速スキルの合体を頼む」

「はいはぁい、じゃあどのスキルを繋ぐか教えてねぇ」

エルクがそう言うと同時、俺の前にウィンドウが表示される。見れば今現在俺が習得したスキルが羅列されており、二つ選べばどのようなスキルが生まれるのかを事前に見ることができるらしい。

成る程、何ができるか分からないみたいなタイプではないようだ。ええと何々、これとこれを混ぜてこれになって……

「ああそうだぁ、スキルはレベルが高いもの同士で組み合わせた方がぁ、より良いスキルになるわぁ」

「ふむふむ」

そう言うこと言われるとスキルを全部レベルマックスにしたくもなるが、スキルのレベルはプレイヤーのレベルアップと合わせて上がるから、今から全部上げるとした場合60……いや、65くらいまで上げなければならない可能性もある。

贅沢は言っていられない、ちゃっちゃと混ぜてしまおう。

「まぁこんなものか」

————————————

PN:サンラク

LV:51（5）

JOB:傭兵（二刀流使い）

73,200マーニ

HP（体力）:30

MP（魔力）:10

STM （スタミナ）:60

STR（筋力）:40

DEX（器用）:50

AGI（敏捷）:70

TEC（技量）:55

VIT（耐久力）:5

LUC（幸運）:74

スキル

・無尽連斬

・ドリルピアッサー

・インファイトLv.1

・スケートフット

・パリングプロテクト

・ハンド・オブ・フォーチュンLv.1

・グレイトオブクライム

・クライマックス・ブーストLv.1

・五艘跳び

・シャープターン

・アサシンピアスLv.1

・オプレッションキックLv.5

・ベストステップ

・餓狼の闘志(ハンガーウルフ)

・オフロードLv.1

装備

左右:帝蜂双剣

頭:凝視の鳥面（VIT+1）

胴:リュカオーンの呪い

腰:隔て刃のベルト（VIT+4）

足:リュカオーンの呪い

アクセサリー:なし

————————————

うん、まぁまぁ整理できたんじゃないだろうか。とはいえ、実際に使ってみて分かったがただ単純に足し算的にスキルを合わせるだけではないみたいだ。

多分だがその時点でのプレイヤーのステータスやレベルとかも参照してスキルが決定されているように思える。なんという検証班殺し、どうりで攻略サイトが重くなるわけだ。

とりあえず実戦での確認は当然として大まかな把握だけしておくか。

無尽連斬、ドリルピアッサー、スケートフット、パリングプロテクト、グレイトオブクライム、五艘跳び、シャープターン……こいつらは名前と多少の効果違いはあるが、おおよそ最初から使っているスキルの諸々だ。

インファイトは格闘スキルに回避スキルを混ぜた結果出来た、超至近距離での格闘ダメージに補正を付与するスキル。基本的に双剣だから使い所は剣を手放さざるを得ない状況になったら輝くスキルかな。

ハンド・オブ・フォーチュン……クソゲーやってる時に似た名前《ハンド・オブ・グローリー》を見かけた記憶がある、確かそのゲーム内では魔法の触媒の名前だった、このゲームではスキル名のようだ。このスキルはSTRではなくLUC、つまり幸運の数値を参照してダメージを算出する。つまり控えめに言っても神スキルだ、ティッシュ装甲かつ技量と幸運に重点的に振っている俺にとって火力を出せる貴重なスキルだ、大切に育てていこう。

アクセルとファイティングスピリッツを合体させたクライマックス・ブースト。体力が三分の一以下かつ相手のレベルが自身より高いほど全ステータスに大幅補正の入る……内容自体は使えるのだが、今の俺とはあまり噛み合わないのがネックだ。なにせティッシュ装甲なので。

アサシンピアス。敵が自身にヘイトを向けていない状態であれば刺突の威力が上がるスキル、以上。

オプレッションキックはダウン状態の鰻やらロブスターやらをゲシゲシ蹴っていたら覚えていたスキルで、ダウン、ノックバック、その他の行動不能や状態異常の敵に対して威力が上がる格闘スキル。合体できるスキルに良いものがなかったので今回は保留。

ベストステップ、これはエムルも覚えていたスキルだな。不安定な足場でも一回だけ完璧なジャンプを成功させるスキルらしいがこれも悪巧みできそうな予感を漂わせる。ほら、壁とか敵の身体の上とか……ね？

個人的な理由で複雑な感情を抱いてしまう問題児スキル……餓狼の闘志(ハンガーウルフ)。こいつは内容自体は結構面白いスキルで「自身が空腹かつ体力が少ない程STR、AGI、VITにバフが付与されるが、代償としてSTM、DEX、TECにデバフが付与される」というものだ。短期決戦と火力追求という点では極めて有用なスキルなのだが……「空腹」「狼」「DEX、TEC」と何故か俺のトラウマを的確に抉ってくるのだこいつは、やめてくれよ本当……

気を取り直してオフロード、こいつは中々にグッドだ。水、泥、砂……そんな足場の不安定な場所でも平地のような動きを可能とするスキル。しかもレベル×10秒、つまりレベル1の段階で十秒というのもまた素晴らしい、レベル10にすれば百秒確定だからな。

「……うん、中々良いね」

現状揃え得るスキルとしては優秀なものが揃ったんじゃないだろうか。いやほんと便利だね特技剪定所！ こんな便利な施設を今までその存在すら知らずにいた大馬鹿野郎がいるらしいっすよ！ いやぁ誰なんでしょうね！

「時にサンラクさぁん？」

「うぉおぉ」

せ、背すじに鳥肌が。いや別に不快感的なものではなく、ウィスパーボイスとでも言うべきエルクの声に不意打ちされたのが原因だ。

何事かとステータスウィンドウから視線を外して見下ろせばエムルのふにゃけた笑顔に似た表情をしたエルクが、何やらメモ帳サイズの小さな本を持って……あ、これ営業スマイルってやつだ。

「ラビッツでしか取り扱っていないスキルの秘伝書とかぁ、いかがですかぁ？ エムルのお気に入りってことでぇ、お安くしておきますよぉ〜？」

「サンラクサン運がいいですわ！ エルクおねーちゃんは基本的に銭ゲ……」

ゴンッ！！

「ばっ！！？」

「お安くしておきますよぉ〜？」

状態異常「頭にたんこぶ」なエムルに合掌。お前が何を言いたかったのかはちゃんと理解したからな……

と、それはともかく安売りされているならちょっと品揃えだけ見ても良いかもしれない。

「どれどれ……」

・致命剣術【半月断ち】 50,000マーニ

・致命刃術【水鏡の月】80,000マーニ

・致命槍術【月光突き】70,000マーニ

・致命柔術【三日月巴】90,000マーニ

エトセトラエトセトラ………

「いや高ぇ！！」

どこが割り引かれているのか教えてくれ！

鬼！ 悪魔！ エルク！

ちなみに通常時は10万越えするようなスキルばかりなので相当安くなっています